

熊本 SJCD 例会抄録

演題 「長期経過観察が導く臨床の真実」

演者名 添島正和

日付 2015年 7月 28日

Key word 1. 基礎資料
2. 診査・診断
3. 長期予後評価

【抄録】

今年、私は開業 40 年を迎えるため 30 年以上経過した症例の予後を再評価することが可能になってきた。これは、1972 年東歯大卒業後の 20 代から臨床写真を撮り続け、開業当時のカルテをすべて保存してきたお陰である。その上で、自らの長期経過観察を通して、臨床のエビデンスを構築してきた。

一方、我々歯科医の仕事は、いかに細心の注意を払ったとしても決して 100% の成功が保証されている訳ではない。

すなわち SJCD の根幹である診査・診断にのっとった修復治療が終了した時点からがスタートで、年数を重ねるごとに治療の妥当性が問われることになる。しかしこのステップをおろそかにすると将来的に医療苦情のリスクが増加することが予測される。

本日はインレーからブリッジ、義歯、インプラントまでの長期予後評価を交え、診査診断の勘所について私見を述べてみたい。是非、若い先生方の多数のご参加と活発なディスカッションを期待しています。